安全データシート

1　化学品及び会社情報

化学品の名称	:	Dissolution Buffer
製品コード	:	
供給者の会社情報		
会社名	:	ブルカージャパン株式会社
住所	:	神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-9
電話番号	:	045-440-0471
FAX 番号	:	045-453-1827
緊急連絡先	:	
製造者の会社情報		
会社名	:	
担当部署	:	
住所	:	
電話番号	:	
FAX 番号	:	
推奨用途及び使用上の制限	:	研究用としてのみ使用可能

2　危険有害性の要約

GHS 分類結果

※記載のないものは「区分に該当しない」または「分類できない」

物理化学的危険性		
引火性液体	:	区分 2
健康に対する有害性		
急性毒性（経皮）	:	区分 3
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	:	区分 2
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	:	区分 1（中枢神経系、呼吸器）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	:	区分 2（中枢神経系、血液系、呼吸器、肝臓、腎臓）
環境に対する有害性	:	「区分に該当しない」または「分類できない」

GHS ラベル要素

絵表示　:

注意喚起語	:	危険
危険有害性情報	:	H225 引火性の高い液体および蒸気 H311 皮膚に接触すると有毒

-Bruker Confidential-

H319
強い眼刺激
H370
臓器の障害（中枢神経系、呼吸器）
H373
長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ（中枢神経系、血液系、呼吸器、肝臓、腎臓）

注意書き

[安全対策]　：　P210
熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P233
容器を密閉しておくこと。
P240
容器を接地しアースを取ること。
P241
防爆型の電気/換気/照明機器を使用すること。
P242
火花を発生させない工具を使用すること。
P243
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
P280
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P264
取扱い後は手をよく洗うこと。
P260
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P270
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

[応急措置]　：　P303 + P361 + P353
皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水【またはシャワー】で洗うこと。
P370 + P378
火災の場合：消火するために粉末薬剤、CO_2、水スプレー（霧）または泡を使用すること。
P302 + P352
皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
P361+ P364
汚染された衣類を直ちにすべて脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P305 + P351 + P338
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337 + P313
眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
P308+ P311
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
P314

-Bruker Confidential-

気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。

［保管］ : P403 + P235
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
P405
施錠して保管すること。

［廃棄］ : P501
内容物/容器を関係法令に基づき適正に廃棄すること。

他の危険有害性 : 情報なし

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

組成及び成分情報 :

No.	成分	官報公示整理番号	CAS 番号	含有量［%］
1	Acetonitrile（アセトニトリル）	2-1508	75-05-8	15～25

濃度範囲は機密保護（営業秘密）、またはバッチのばらつきによるもの。

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 : 特になし

4 応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。呼吸がない場合、呼吸が不規則な場合、または呼吸停止が発生した場合は、訓練を受けた者が人工呼吸または酸素を供給してください。マウストゥーマウスで人工呼吸を行うことは、援助する人にとって感染症等の危険の可能性がある。症状が続く場合には医師の治療を受ける。

皮膚に付着した場合 : 皮膚に付着した場合は、直ちに多量の水で洗う。汚染された衣服をすべて直ちに脱ぐ。症状が続く場合には医師の治療を受ける。衣類、靴は再使用する前に洗濯する。

眼に入った場合 : すぐに多量の水で眼を洗い流し、時々上下のまぶたを持ち上げる。コンタクトレンズがあるかどうかを確認し、取り外す。 少なくとも 20 分間は洗い流し続ける。 刺激が生じた場合は医師の診察を受けること。

飲み込んだ場合 : 口の中を水で洗い流す。傷病者を新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で安静にさせる。物質を飲み込んでいて、ばく露された人に意識がある場合は、少量の水を飲ませる。ばく露した人が気分が悪くなった場合は、嘔吐する危険があるため中止する。医療従事者の指示がない限り、無理に嘔吐させない。嘔吐した場合は、嘔吐物が肺に入らないように頭を低く保ち、医師の診察を受けること。意識のない人には決して口から何かを与えないこと。意識を失った場合は、回復体位をとり、直ちに医師の診察を受けること。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンドなどのきつい衣類を緩め、気道を確保する。

最も重要な急性及び遅発性症状 : 重度の眼刺激。飲み込んだ場合、口、喉、胃を刺激する。

応急措置をする者の保護 : 救助者は、状況に応じて適切な保護具(保護手袋、保護衣等)を着用

-Bruker Confidential-

する。

医師に対する特別な注意事項 : 情報なし

5 火災時の措置

適切な消火剤	:	粉末薬剤、CO_2、水スプレー（霧）または泡
使ってはならない消火剤	:	棒状水、水性消火液
特有の危険有害性	:	以下の危険な燃焼生成物が生じる。窒素酸化物（NOx）、一酸化炭素(CO)、二酸化炭素(CO_2)
特有の消火方法	:	火災が発生した場合は、現場付近から全員を立ち退かせて現場を速やかに隔離すること。容器を移動させることができれば移動させる。可能であれば容器を冷却する。
消火を行う者の特別な保護具及び予防措置	:	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	全ての方向に適切な距離を取り、漏出区域への関係者以外の立入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用する。
環境に関する注意事項	:	流出した物質や流出物の飛散、土壌、水路、排水溝、下水道との接触を避ける。製品が環境汚染（下水道、水路、土壌または大気)を引き起こした場合は、関係当局に通知すること。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	:	危険のない場合は漏れを止める。 容器を流出エリアから移動させる。 火花防止工具および防爆装置を使用すること。風上から漏出物に接近する。下水道、水路、地下室、または密閉された場所への侵入を防ぐこと。流出物を不燃性の吸収性材料で封じ込め、回収した後、 砂、土、バーミキュライト、または珪藻土を容器に入れて、地域の規制に従って廃棄する。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して廃棄する。吸収材は、こぼれた製品と同じ危険を引き起こす可能性があり注意する。
二次災害の防止策	:	排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意事項

技術的対策	:	「８．ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、必要に応じて適切な個人用保護具を着用する。取扱い場所の近くに眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
安全取扱注意事項	:	「８．ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。全ての安全注意を読み理解するまで取扱わない。眼、皮膚、衣類との接触を避け、蒸気や霧を吸い込まないようにする。換気が不十分な場合は、適切なマスクを着用すること。適切に換気されていない限り、保管場所や狭い空間に入らない。熱、火花、裸火、その他の発火源から遠ざけて保管および使用する。防爆型の電気(換気、照明、マテリアルハンドリング）機器を使用する。静電気に対する予防措置を講じること。
接触回避	:	「１０．安定性及び反応性」を参照。
衛生対策	:	取扱い後は手をよく洗う。この製品を使用する時に、飲食又は喫煙

-Bruker Confidential-

をしない。

保管上の注意事項

技術的対策	:	容器をしっかりと閉める。取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。元の容器に入れ、直射日光を避け、乾燥した涼しく換気の良い場所で、混触危険物質から離して保管する。開封した容器は慎重に再封して保管する必要がある。すべての発火源を排除する。
適切な保管条件	:	元の容器または互換性のある材料で作られた承認された代替容器に入れ、使用しないときはしっかりと閉めて保管する。空の容器には製品の残留物が残り、危険を伴う可能性がある。容器を再利用しないこと。
混触禁止物質	:	情報なし
安全な容器包装材料	:	情報なし

8　ばく露防止及び保護措置

管理濃度	:	設定されていない
濃度基準値(安衛法)	:	10ppm（8 時間）
許容濃度		
日本産業衛生学会（2023）	:	設定されていない
ACGIH（2021）	:	TLV-TWA: 20 ppm　(S)
設備対策	:	取扱い場所の近くに眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置する。
保護具		
呼吸器保護具	:	リスクアセスメントにより曝露を避けるために必要であることが示された場合等には、規格に適合した保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	:	リスクアセスメントにより曝露を避けるために必要であることが示された場合等には、規格に適合した保護手袋（不浸透性保護手袋等）を着用する。手袋メーカーが指定したパラメータを考慮して、使用中に手袋がその保護特性を保持していることを確認すること。手袋の材質によっては、破過までの時間が異なる場合があることに注意する。複数の物質からなる混合物の場合、 手袋の保護時間を正確に見積もることはできない。
眼及び／又は顔面の保護具	:	規格に適合した保護眼鏡や保護面、ゴーグル等を着用する。
皮膚及び身体の保護具	:	長袖作業衣を着用する。必要に応じて、保護衣、保護エプロン等を着用する。また、静電気による発火の恐れがある場合は、帯電防止用防護服、靴を着用する。
衛生対策	:	化学製品を扱った後、食事、喫煙、トイレの使用前、および作業時間の終わりには、手、前腕、顔を徹底的に洗うこと。

9　物理的及び化学的性質

物理状態	:	液体
色	:	情報なし
臭い	:	情報なし
融点／凝固点	:	情報なし
沸点又は初留点及び沸点	:	76℃

-Bruker Confidential-

範囲		
可燃性	:	情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	:	下限界：4% 上限界：16%
引火点	:	6℃
自然発火点	:	情報なし
分解温度	:	情報なし
pH	:	情報なし
動粘性率	:	情報なし
溶解度	:	水に可溶
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	:	情報なし
蒸気圧	:	情報なし
密度及び／又は相対密度	:	0.97
相対ガス密度	:	情報なし
粒子特性	:	該当しない
粘度	:	情報なし
その他の情報	:	情報なし

10 安定性及び反応性

反応性及び化学的安定性	:	通常の保管および使用条件では、危険な反応は発生しない。
危険有害反応可能性	:	この製品またはその成分については、反応性に関する具体的な試験データはない。
避けるべき条件	:	考えられる発火源（火花または炎）をすべて避ける。容器を加圧、切断、溶接、ろう付け、はんだ付け、穴あけ、研磨したり、熱や発火源にさらしたりしないこと。
混触危険物質	:	酸化性物質
危険有害な分解生成物	:	通常の保管および使用条件では、危険な分解生成物が生成されない。

11 有害性情報

製品の有害性

急性毒性（経口）	:	区分に該当しない ラットの LD50 値として、1,315 mg/kg (雄)、1,730 mg/kg (雌)、2,230 mg/kg (雌)、2,460 mg/kg (雄)、3,053 mg/kg (雄)、3,200 mg/kg、3,445 mg/kg (雄)、3,800 mg/kg、4,050 mg/kg (雌)、6,702 mg/kg (雌) (EHC 154 (1993)) との 10 件の報告があり、2 件が区分 4、8 件が区分外（うち 7 件が国連分類基準の区分 5）に該当する。件数の多い区分を採用して区分外とした。ガイダンスに従い、旧分類から区分を変更した（アセトニトリル）。 ⇒　その他成分も区分に該当しないことより、区分に該当しないとした。
急性毒性（経皮）	:	区分 3 ウサギの LD50 値として、395 mg/kg (雄) (75%水溶液)、978.8 mg/kg (雄) (原液) (EHC 154 (1993)、EU-RAR (2002)、NITE 初期リスク評価書 (2007))、3,915 mg/kg (原液) (EHC 154 (1993)、EU-RAR (2002)、PATTY (6th, 2012)) との 3 件の報告

-Bruker Confidential-

があり、2 件が区分 3、1 件が区分外（国連分類基準の区分 5）に該当する。件数の多い区分を採用して区分 3 とした（アセトニトリル）。
⇒アセトニトリル最大量 30%とし、ATEmix を計算し、区分 3 とした。

急性毒性（吸入：気体）　：　区分に該当しない
GHS 定義による気体ではない。

急性毒性（吸入：蒸気）　：　区分に該当しない
ラットの 4 時間吸入ばく露試験の LC50 値として、16,000 ppm (雌雄) (EHC 154 (1993)、EU-RAR (2002)、NITE 初期リスク評価書（2007)、PATTY (6th, 2012))、8 時間吸入ばく露試験の LC50 値として、7,551 ppm (雄) (4 時間換算値: 10,679 ppm)、12,435 ppm (雌) (4 時間換算値: 17,586 ppm) (EHC 154 (1993)、EU-RAR (2002)、NITE 初期リスク評価書（2007)）に基づき、区分 4 とした。旧分類から区分を変更した。なお、LC50 値が飽和蒸気圧濃度（98,020 ppm）の 90%より低いため、ミストがほとんど混在しないものとして、ppm を単位とする基準値を適用した（アセトニトリル）。
⇒その他成分は区分に該当しない。アセトニトリル最大量 30%とし、ATEmix を計算し、区分に該当しないとした。

急性毒性（吸入：粉じん及びミスト）　：　分類できない
データ不足のため分類できない。

皮膚腐食性／刺激性　：　区分に該当しない
　ウサギを用いた複数の皮膚刺激性試験において、本物質に刺激性はみられない、又は軽度の刺激性を示すとの報告（NITE 初期リスク評価書（2007)）、EU-RAR (2002)）から、区分外（国連分類基準の区分 3）とした（アセトニトリル）。
⇒　他の成分も区分に該当しないため、区分に該当しないとした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性　：　区分 2
ウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質の眼刺激性は中等度又は重度の刺激性を示すとの報告（NITE 初期リスク評価書 (2007)、EU-RAR (2002)）から、区分 2 とした。なお、EU CLP 分類において本物質は Eye Irrit. 2 に分類されている（ECHA CL Inventory (Access on June 2017)）（アセトニトリル）。
⇒　加成方式の判定で濃度限界(10%)以上のため区分 2 とした。

呼吸器感作性／皮膚感作性　：　分類できない
データ不足のため分類できない。

生殖細胞変異原性　：　分類できない
データ不足のため分類できない。

発がん性　：　分類できない
データ不足のため分類できない。

生殖毒性　：　分類できない
データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）　：　区分 1（中枢神経系、呼吸器）
　ヒトでは本物質の誤飲や自殺企図による経口摂取例、及び工場での事故による急性吸入ばく露例が複数例報告されており、急性影響は、疲労感、悪心、嘔吐、錯乱、痙攣、昏睡等であり、重度の場合は死に至るとの記載がある（NITE 初期リスク評価書（2007)。また、吸入ばく露で鼻、喉に刺激があるとの報告がある（NITE 初期

-Bruker Confidential-

リスク評価書（2007））。
　実験動物では、マウスの単回経口投与試験で区分 2 範囲の 300～2,000 mg/kg で、自発運動低下、振戦、衰弱、正向反射低下、努力呼吸、痙攣、喘ぎ、流涎が認められたとの報告がある（EU-RAR（2002）、NITE 初期リスク評価書（2007））。また、マウスの 4 時間単回吸入ばく露試験で区分 2 範囲の 3,039～5,000 ppm で、自発運動低下、歩行異常、正向反射消失、緩徐呼吸、努力性呼吸、速呼吸、喘ぎ、体温低下、後肢伸展、横臥位、被毛の黄色化が認められたとの報告（EU-RAR（2002）、NITE 初期リスク評価書（2007））、及びマウスの 1 時間単回吸入ばく露試験で 500～5,000 ppm（4 時間換算値: 250～2,500 ppm、区分 1 範囲に相当）で、重度の呼吸困難、あえぎ、振戦、痙攣が認められたとの報告（EHC 154（1993）、EU-RAR（2002）、NITE 初期リスク評価書（2007））がある。更に、ラットの 8 時間単回吸入ばく露試験で生存例と死亡例の両方に肺の出血とうっ血が認められたとの報告がある（EU-RAR（2002）、NITE 初期リスク評価書（2007））。この試験では用量の詳細な記載はないが、LC50 値（4 時間換算値）は 10,678 ppm（雄）、17,585 ppm（雌）と報告されており、影響は区分 2 範囲の用量でみられたと考えられる。以上の情報から、本物質は中枢神経系と呼吸器に影響を与えると考えられる、したがって区分 1（中枢神経系、呼吸器）とした（アセトニトリル）。
⇒　アセトニトリル　≧10%のため 区分 1(中枢神経系 呼吸器)とした。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）　：　区分 2（中枢神経系 血液系 呼吸器 肝臓 腎臓）
ヒトに関する情報はない。
　実験動物については、ラットを用いた蒸気による 13 週間吸入毒性試験（6 時間/日、5 日間/週）において、区分 2 のガイダンス値の範囲内である 800 ppm（1,340 mg/m^3（90 日換算: 0.97 mg/L））以上で死亡、自発運動低下、被毛粗剛、胸腺の重量減少、貧血症状（赤血球数・ヘモグロビン濃度・ヘマトクリット値の減少）、死亡例で肺のうっ血及び水腫、肺胞・脳出血、骨髄細胞減少、胸腺の萎縮、脾臓のリンパ球減少、卵巣の黄体減少がみられ（NITE 初期リスク評価書（2007）、環境省リスク評価第 3 巻（2004）、NTP TR447（1996））、ラットを用いた蒸気による 90 日間吸入毒性試験（7 時間/日、5 日/週）において、区分 2 のガイダンス値の範囲内である 166 ppm（279 mg/ m^3（90 日換算: 0.33 mg/L））以上で肺拡張不全、肺胞の組織球性細胞集簇、330 ppm（554 mg/m^3（90 日換算: 0.65 mg/L））以上で気管支炎、肺炎がみられている（NITE 初期リスク評価書（2007）、EU-RAR（2002））。また、マウスを用いた蒸気による 13 週間吸入毒性試験（6 時間/日、5 日/週）において、区分 1 のガイダンス値の範囲内である 100 ppm（168 mg/m^3）（90 日換算: 0.12 mg/L）以上で肝臓の重量増加、区分 2 のガイダンス値の範囲内である 200 ppm（335 mg/m^3）（90 日換算: 0.24 mg/L）以上で前胃の上皮過形成を伴う限局性潰瘍、400 ppm（670 mg/m^3）（90 日換算: 0.48 mg/L）で死亡、肝細胞空胞化、800 ppm（1,340 mg/m^3）（90 日換算: 0.97 mg/L）で自発運動低下、円背位、筋硬直がみられ（NITE 初期リスク評価書（2007）、NTP TR447（1996））、マウスを用いた蒸気による 92 日間吸入毒性試験（6.5 時間/日、5 日/週）において、区分 1 のガイダンス値の範囲内である 100 ppm（168

-Bruker Confidential-

mg/m³）（90 日換算: 0.18 mg/L）以上で肝臓の重量増加、区分 2 のガイダンス値の範囲内である 200 ppm（335 mg/m³）（90 日換算: 0.36 mg/L）以上で死亡、赤血球数・ヘマトクリット値減少、肝細胞空胞化がみられている（NITE 初期リスク評価書（2007））。

このほか、サルを用いた蒸気による 91 日間吸入毒性試験（7 時間/日、5 日/週）において、区分 2 のガイダンス値の範囲内である 350 ppm（588 mg/m³）（ガイダンス値換算: 0.69 mg/L）で脳の上矢状もしくは下矢状静脈洞の出血、肺の乾酪性結節、肝臓の退色、限局性肺気腫、肺胞上皮のび漫性増生、急性気管支炎、限局性マクロファージ色素沈着、腎臓の近位尿細管の混濁腫脹がみられている（NITE 初期リスク評価書（2007））。

以上から、区分 2（血液系、中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓）とした。なお、前胃の所見は刺激によるものと考え分類根拠としなかった（アセトニトリル）。

⇒　アセトニトリル　≧10%のため、区分 2（中枢神経系 血液系 呼吸器 肝臓 腎臓）とした。

誤えん有害性　：　分類できない
データ不足のため分類できない。

12 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性（短期/急性）	：	区分に該当しない 区分に該当しない（アセトニトリル）。また、他の成分も区分に該当しないため。
水生環境有害性（長期/慢性）	：	区分に該当しない 区分に該当しない（アセトニトリル）毒性値（甲殻類）960mg/l 毒性値（藻類）700mg/l 急速分解性　有
残留性・分解性	：	情報なし
生物蓄積性	：	Log Pow -0.34（アセトニトリル）
土壌中の移動性	：	情報なし
オゾン層への有害性	：	情報なし
他の有害性	：	情報なし

13 廃棄上の注意

残余廃棄物	：	廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従う。都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。
汚染容器および包装	：	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

14 輸送上の注意

国連番号	：	1648
品名	：	ACETONITRILE　SOLUTION
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	：	3

-Bruker Confidential-

容器等級	:	II
海洋汚染物質	:	該当しない
MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	:	該当しない
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	:	一般的に輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。
緊急対応時指針番号	:	127

15 適用法令

労働安全衛生法	:	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法５７条、施行令第１８条) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第５７条の２、施行令第１８条の２ 別表第9) リスクアセスメントを実施すべき危険有害物（法第 57 条の 3） 危険物・引火性の物（施行令別表第１第４号） 皮膚等障害化学物質等（則第 594 条の２）
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）	:	優先評価化学物質(法第２条第５項)
毒物及び劇物取締法	:	該当しない（40%未満であるため）
化学物質排出把握管理促進法	:	該当しない
消防法	:	危険物第四類 第一石油類 危険等級Ⅱ 水溶性

16 その他の情報

参考文献：

1) JIS Z 7252:2019　GHS に基づく化学品の分類方法／日本規格協会（2019.5.25）
2) JIS Z 7253:2019　GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル，作業場内の表示及び安全データシート(SDS)）／日本規格協会（2019.5.25）
3）化学物質総合情報提供システム（NITE CHIRIP）（https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/systemTop）
4）欧州化学庁　C&L Inventory（https://echa.europa.eu）
5）許容濃度等の勧告（2023 年度）／日本産業衛生学会
6）－ＧＨＳ対応－化管法･安衛法･毒劇法におけるラベル表示・ＳＤＳ提供制度（令和 5 年 10 月）（https://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anzen/130813-01.html）／経済産業省、厚生労働省
7）職場のあんぜんサイト（https://anzeninfo.mhlw.go.jp/index.html）／厚生労働省
8）［ERG 2020 版］危険物輸送のための緊急時応急措置指針／日本化学工業協会

-Bruker Confidential-

本データシートは、日本工業規格 JIS Z 7253:2019「GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS）」に準じて作成しており、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、現時点で弊社の有する情報を取扱事業者（ユーザー）にご提供するものです。記載内容は、現時点で入手できた資料、情報、データ等に基づいて作成しましたので、新しい知見により改訂されることがあります。

この情報は材料、製品に関するものであり、この材料が他の素材と組み合わされたり、処理されたりした場合については想定しておりません。この材料を適切に使用する最終的決定の責任、及びこの情報を取扱事業者独自の取り扱いに適合させ完全で満足できるものとする責任は、取扱事業者にあります。

本データシートは必ずしも製品の安全性を保証するものではなく、弊社が知見を有さない危険性、有害性の可能性がありますので、取扱事業者はこれを参考として、個々の取扱い、用途、用法等の実態に応じた安全対策を実施の上、お取扱い願います。

特に医療機器・医療用途、食品接触部材用途、玩具用途については、その要求特性に対する安全性や適合性等について、貴社の責任でリスクアセスメントを行ってご判断下さい。

-Bruker Confidential-